

# 高齢者歯科学：631-4-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	*野本 たかと (障害者歯科学)

学修目標 (GIO) と単位数	<p>単位数：1単位</p> <p>わが国における高齢化率は、2024年(令和6年)には対全人口比で65歳以上が29.2%であり、今後も増加傾向を示すと推測される。このような超高齢社会において歯科医学、歯科医療の担う役割は大きい。</p> <p>高齢者にとって食べられるということは、QOLの最上位に位置すると言ってしまうのではなく、口腔保健の良否が社会生活を左右する。また、目標とされる健康長寿社会への貢献については関連分野との連携が必須である。</p> <p>したがって、顎口腔系の加齢変化および歯科的対応はもとより、高齢者をとりまく社会経済的環境、保健福祉制度をはじめとして、慢性疾患、全身管理についても理解を深めておかなければならない。</p> <p>講義担当者は、歯科医師としての実務経験を基に、超高齢社会における歯科医師に必要な知識、技能、態度を教授する。</p>
担当教員	*野本 たかと、*遠藤 眞美、*地主 知世、*梅澤 幸司、*菊谷 武、*五十嵐 憲太郎、*伊藤 誠康、*田中 陽子、*平野 浩彦、*林 佐智代
教科書	よくわかる高齢者歯科学 佐藤裕二・植田耕一郎・菊谷武 編集主幹 永末書店
参考図書	高齢者歯科診療ガイドブック 下山和弘、櫻井 薫、深山治久、米山武義 編集 (財)口腔保健協会 新版 歯学性のための摂食嚥下リハビリテーション学 向井美恵、山田好秋、井上誠、弘中祥司 編著 医歯薬出版株式会社
評価方法 (EV)	授業期間内に行う2回の平常試験(2回の合計で100%)を評価点とする。 平常試験はそれぞれの授業担当者の担当時間数に比例した点数配分である。 平常試験の再試験は行わない。 レポートによって再評価を行うことがある。
学生へのメッセージ オフィスアワー	高齢者歯科学は幅広い知識を要求されるとともに社会のニーズにこたえなければならない領域である。授業だけでは理解が難しい場合がある。疑問な点や質問などは、下記オフィスアワーにいつでも教授室および研究室にて対応する。 オフィスアワー：9時から19時

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/07 (火) 1時限 09:00~10:30	高齢者歯科医学概論	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 老化の機序を説明できる。 3. 老化の身体的、精神的、心理的特徴を説明できる。 4. 加齢に伴う歯、顎、口腔の生理的、機能的変化を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：老化の身体的、精神的、心理的特徴 事前学修時間：30分 事後学修項目：加齢に伴う歯、顎、口腔の生理的、機能的変化 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 4 高齢者・有病者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 ア 全身状態の評価 a 身体状態</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-3 組織、器官及び個体の老化 ①人体の老化の特性と機序及び寿命を概説できる。 ②老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。 ③老化に伴う精神的・心理的变化を説明できる。</p>	*遠藤 眞美
2026/04/14 (火) 1時限 09:00~10:30	加齢と老化	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。</p>	*遠藤 眞美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/14 (火) 1時限 09:00~10:30	加齢と老化	<p>2. 高齢者における軟組織、口腔粘膜疾患を説明できる。 3. 高齢者における硬組織関連疾患を説明できる。 4. 高齢者における神経疾患を説明できる。 5. 加齢と老化の違いとメカニズムを説明できる。 6. 全身的加齢変化について説明できる。 7. 知的機能の加齢変化と咀嚼との関連性について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科保存学、歯科補綴学、歯科口腔外科学における加齢に関する知識 事前学習時間：30分 事後学修項目：歯科保存学、歯科補綴学、歯科口腔外科学における加齢に関する知識 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 疾患・病態 イ 認知障害 a 認知症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ②高齢者に多く見られる疾患及び服用している薬物を説明できる。</p>	*遠藤 眞美
2026/04/21 (火) 1時限 09:00~10:30	口腔に関連した加齢と老化	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 高齢者の生理的・機能的変化について説明できる。 3. 高齢者で頻度の高い慢性疾患を挙げ説明できる。 4. 慢性疾患として挙げられる老年病を機序別に説明できる。 5. 歯科治療と高齢者慢性疾患とのかかわりを説明できる。 6. 高齢者におけるう蝕、咬耗、歯周病、唾液腺変化を説明できる。 7. 高齢者における顎骨、筋、顎関節、舌の変化を説明できる。 8. 高齢者における摂食嚥下、咀嚼、発語機能の変化を説明できる。 9. オーラルフレイル、口腔機能低下症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：高齢者の生理的・機能的変化、高齢者で頻度の高い慢性疾患 事前学習時間：30分 事後学修項目：高齢者の生理的・機能的変化、高齢者で頻度の高い慢性疾患 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 疾患・病態 オ フレイル</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ④口腔・顎顔面領域の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ①高齢者の生理的、心理的及び行動的特徴を説明できる。</p>	*地主 知世
2026/04/28 (火) 1時限 09:00~10:30	高齢患者の臨床評価と診療方針の決定	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 高齢者の口腔機能の評価について説明できる。 3. 高齢患者の臨床評価と診療方針について説明できる。 4. 高齢者の日常生活動作、生活自立度、認知機能評価について説明できる。 5. 高齢者の口腔機能低下を説明できる。 6. 多職種連携について説明できる。</p>	*梅澤 幸司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/28 (火) 1時限 09:00～10:30	高齢患者の臨床評価と診療方針の決定	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔機能検査、口腔ケア、多職種連携 事前学修時間：30分 事後学修項目：口腔機能検査、口腔ケア、多職種連携 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 4 高齢者・有病者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 イ 口腔機能の評価 a 口腔機能および摂食嚥下機能</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。</p>	*梅澤 幸司
2026/05/12 (火) 1時限 09:00～10:30	高齢者歯科の臨床	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 高齢者の歯および歯周組織の疾患と治療法を説明できる。 3. 高齢者にみられる軟組織疾患と硬組織疾患および神経疾患と唾液腺疾患を説明できる。 4. 高齢者の周術期口腔機能管理を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔機能検査、口腔ケア 事前学習時間：30分 事後学修項目：口腔機能検査、口腔ケア 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 6 高齢者等に関連した歯科診療 ア 歯の硬組織疾患および歯周疾患への対応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ②高齢者に多く見られる疾患及び服用している薬物を説明できる。 ④高齢者における口腔健康管理の用具と処置を説明できる。</p>	*遠藤 眞美
2026/05/19 (火) 1時限 09:00～10:30	高齢者と栄養	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 摂食・嚥下障害の身体所見を説明することができる。 3. 摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションの理念を説明できる。 4. 摂食・嚥下障害の食事指導、食事介助を説明できる。 5. 高齢者の栄養管理・栄養療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：高齢者の栄養管理・栄養療法、摂食・嚥下障害の食事指導、食事介助 事前学習時間：30分 事後学修項目：高齢者の栄養管理・栄養療法、摂食・嚥下障害の食事指導、食事介助 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】</p>	菊谷 武 *野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/19 (火) 1時限 09:00～10:30	高齢者と栄養	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 疾患・病態 ウ 摂食嚥下障害 a 摂食行為・食物認知障害</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ①高齢者の生理的、心理的及び行動的特徴を説明できる。 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。</p>	<p>菊谷 武 *野本 たかと</p>
2026/05/26 (火) 1時限 09:00～10:30	高齢者に多い全身疾患と臨床検査	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 高齢者における罹患頻度の高い慢性疾患を説明できる。 3. 臨床検査データから全身状況を説明できる。 4. 医師との連携を円滑に行うことができる。 5. 全身状態に応じた歯科治療を選択できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：高齢者における罹患頻度の高い慢性疾患、全身状態に応じた歯科治療 事前学習時間：30分 事後学修項目：高齢者における罹患頻度の高い慢性疾患、全身状態に応じた歯科治療 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 4 高齢者・有病者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 ア 全身状態の評価 a 身体状態</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。 ⑤高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。</p>	<p>*梅澤 幸司</p>
2026/06/02 (火) 1時限 09:00～10:30	第1回平常試験・解説講義	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 平常試験・解説講義</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：前半のすべての領域 事前学習時間：3時間 事後学修項目：前半のすべての領域 事後学習時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 4 高齢者・有病者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 イ 口腔機能の評価 a 口腔機能および摂食嚥下機能</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患</p>	<p>*野本 たかと *遠藤 眞美 *地主 知世 *梅澤 幸司</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/02 (火) 1時限 09:00～10:30	第1回平常試験・ 解説講義	E-5-1) 高齢者の歯科治療 ①高齢者の生理的、心理的及び行動的特徴を説明できる。 ②高齢者に多く見られる疾患及び服用している薬物を説明できる。 ⑤高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 ④高齢者の置かれた社会環境を説明できる。 ⑦社会環境（ノーマライゼーション、バリアフリー、quality of life <QOL>）の考え方を説明できる。 ⑧地域における保健・医療・福祉・介護の連携（地域包括ケアシステム）を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。	*野本 たかと *遠藤 真美 *地主 知世 *梅澤 幸司
2026/06/09 (火) 1時限 09:00～10:30	構音機能のリハビリテーション	【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。  【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 構音について説明できる。 3. 構音機能と関連する解剖・生理について説明できる。 4. 構音障害の原因と病態について説明できる。 5. 構音障害の評価と診断について説明できる。 6. 構音障害への対応について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：器質性・運動性構音障害の原因疾患、構音障害の評価法、構音障害への対応 事前学習時間：30分 事後学習項目：器質性・運動性構音障害の原因疾患、構音障害の評価法、構音障害への対応 事後学習時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 202教室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査 1 口腔検査・顎口腔機能検査 イ 顎口腔機能検査 f 発声・構音・発語検査  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ④高齢者における口腔健康管理の用具と処置を説明できる。 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。	*五十嵐 憲太郎 *伊藤 誠康
2026/06/16 (火) 1時限 09:00～10:30	口腔機能低下症と 口腔健康管理	【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。  【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. オーラルフレイルについて説明できる。 3. 口腔機能低下症について説明できる。 4. 高齢者の補綴歯科治療について説明できる。 5. 口腔機能低下症の検査法を列挙できる。 6. 口腔機能低下症の検査に関する基準値を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔機能低下症とその検査と対応について 事前学習時間：30分 事後学修項目：口腔機能低下症とその検査と対応について 事後学習時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有・スマホによるコンセプトテストの実施  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 202教室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 4 高齢者・有病者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 イ 口腔機能の評価 a 口腔機能および摂食嚥下機能  【コアカリキュラム】	*伊藤 誠康 *五十嵐 憲太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/16 (火) 1時限 09:00～10:30	口腔機能低下症と 口腔健康管理	E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。	*伊藤 誠康 *五十嵐 憲太郎
2026/06/23 (火) 1時限 09:00～10:30	認知症高齢者の食 支援と口腔ケア	【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。  【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。 3. 有病高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。 4. 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 5. 医科との連携について説明できる。 6. 高齢者の生活環境と口腔実態の関わりについて説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：高齢者に多くみられる疾患、有病高齢者の歯科治療時の注意点、高齢者の歯科治療時の全身管理、医科との連携 事前学習時間：30分 事後学修項目：高齢者に多くみられる疾患、有病高齢者の歯科治療時の注意点、高齢者の歯科治療時の全身管理、医科との連携 事後学習時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 202教室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 疾患・病態 イ 認知障害 a 認知症  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ②高齢者に多く見られる疾患及び服用している薬物を説明できる。 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。 ④高齢者における口腔健康管理の用具と処置を説明できる。 ⑤高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 ⑥要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。 ⑧摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。	平野 浩彦 *野本 たかと
2026/06/30 (火) 1時限 09:00～10:30	診療環境（通院、 入院、在宅）・訪 問診療の基本と実 際 その1在宅患 者の場合	【授業の一般目標】 健康長寿社会における歯科医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。  【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 高齢者の福祉・介護の各制度について説明できる。 3. 要介護高齢者の食事の実際を説明できる。 4. 高齢患者とのコミュニケーション技法を説明できる。 5. 在宅高齢者の訪問歯科診療の実際を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：高齢者の福祉・介護の各制度、要介護高齢者の食事の実際、施設における口腔のケア 事前学習時間：30分 事後学修項目：高齢者の福祉・介護の各制度、要介護高齢者の食事の実際、施設における口腔のケア 事後学習時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 202教室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 9 在宅、病院、施設における歯科診療 ア 歯科訪問診療 a 全身状態評価  【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-4 コミュニケーション能力 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患	*田中 陽子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/30 (火) 1時限 09:00～10:30	診療環境（通院、入院、在宅）・訪問診療の基本と実際 その1 在宅患者の場合	E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑥要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。 ⑦在宅医療（訪問歯科診療を含む）を説明できる。	*田中 陽子
2026/07/07 (火) 1時限 09:00～10:30	診療環境（通院、入院、在宅）・訪問診療の基本と実際 その2 施設入所患者の場合	<p>【授業の一般目標】 健康長寿社会における歯科医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 高齢者の福祉・介護の各制度について説明できる。 3. 要介護高齢者の食事の実際を説明できる。 4. 施設における口腔のケアについて説明できる。 5. 高齢患者とのコミュニケーション技法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：高齢者の福祉・介護の各制度、要介護高齢者の食事の実際、施設における口腔のケア 事前学習時間：30分 事後学修項目：高齢者の福祉・介護の各制度、要介護高齢者の食事の実際、施設における口腔のケア 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 9 在宅、病院、施設における歯科診療 ア 歯科訪問診療 c 保健指導、口腔健康管理</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-4 コミュニケーション能力 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ④高齢者における口腔健康管理の用具と処置を説明できる。 ⑤高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 ⑥要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*梅澤 幸司
2026/07/14 (火) 1時限 09:00～10:30	高齢者・中途障害者の摂食嚥下リハビリテーション その1 リハビリの概念と摂食嚥下機能	<p>【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 摂食嚥下障害の病因・病態を説明できる。 3. 摂食嚥下機能のメカニズムを説明できる。 4. 摂食嚥下障害者への対応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：摂食・嚥下機能の病因・病態、摂食・嚥下障害の評価・検査、摂食・嚥下障害への対応 事前学習時間：30分 事後学習項目：摂食・嚥下機能の病因・病態、摂食・嚥下障害の評価・検査、摂食・嚥下障害への対応 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VII 治療 6 リハビリテーション イ リハビリテーションの技術 a 摂食嚥下障害のリハビリテーション</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。</p>	*野本 たかと
2026/07/21 (火)	高齢者・中途障害	【授業の一般目標】	*林 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
1時限 09:00～10:30	者の摂食嚥下リハビリテーション その2検査ならびにリハビリの実際	健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。  【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 摂食嚥下障害の評価・検査を説明できる。 3. 摂食嚥下障害への対応を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：摂食・嚥下機能の病因・病態、摂食・嚥下障害の評価・検査、摂食・嚥下障害への対応 事前学修時間：30分 事後学修項目：摂食・嚥下機能の病因・病態、摂食・嚥下障害の評価・検査、摂食・嚥下障害への対応 事後学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 202教室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 7 摂食嚥下障害への対応（摂食機能療法） ア 治療的アプローチ a 間接訓練  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑧摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。	*林 佐智代
2026/08/18 (火) 1時限 09:00～10:30	第2回平常試験・ 解説講義	【授業の一般目標】 健康長寿に医療人として貢献するために、高齢者歯科医学の基本的な知識、技能、態度を修得する。  【行動目標（SBOs）】 1. 平常試験・解説講義  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：全範囲の領域 事前学修時間：8時間 事後学修項目：全範囲の領域 事後学修時間：2時間  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 202教室  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ①高齢者の生理的、心理的及び行動的特徴を説明できる。 ②高齢者に多く見られる疾患及び服用している薬物を説明できる。 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。 ④高齢者における口腔健康管理の用具と処置を説明できる。 ⑥要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。 ⑦在宅医療（訪問歯科診療を含む）を説明できる。 ⑧摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。	*野本 たかと *梅澤 幸司 *林 佐智代 *地主 知世